

栄保護司会だより

更生
保護



栄区いち川
マスコットキャラクター
タッチーくん

横浜市栄保護司会

発行人 中村 良照
編集人 細野 ゆり
事務局 栄区桂町 279-29
栄区社会福祉協議会内
電話 045-894-8521
承認 栄区連 第310号

「皆様の日々の活動に心から 感謝申し上げます」

栄区長 松永 朋未

栄保護司会 中村会長様をはじめ、保護司会の会員の皆さまにおかれましては、日頃から更生保護活動並びに地域の発展に多大なるご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。



松永 朋美 栄区長

栄区保護司の皆様のエピソードを伺うたびに、私は胸を打たれます。生きづらさを抱え、罪を犯してしまった少年に対して、その後の更生を願い、じっくりと話を聞き寄り添う姿勢。また、更生を目指す方々に対して思いを届け続け、希望の進学や就職を果たすなど更生していく様子を見守り支援する姿勢。

その結果、立派に更生された方から思いがけず感謝の気持ちが届くこともあり、まさに第74回「社会を明るくする運動」のキャッチフレーズである『想う、ときには足をとめ。』を体現されている姿に感動と感謝の念を抱いております。

この「社会を明るくする運動」のキャッチフレーズは、私の心に深く残っています。「たとえ時間がかかっても、たとえ過去にあやまちがあっても誰かと一緒なら希望はある」。まさに皆様が、更生を目指す方々にとっての希望の光そのものだと思います。

栄区といたしましても地域の防犯活動の支援をはじめ、栄警察署や更生保護女性会等の関係機関と連携して安全・安心な地域づくりに取り組むことで、皆様の活動の支えになれるよう努めてまいります。

キャッチフレーズの最後には、こう記されています。「私たちの『待つ時間』は、きっと誰かの『変わっていく時間』」

皆様の「待つ時間」を、栄区は心から応援いたします。

地域の皆様と共に歩む更生保護

横浜保護観察所長 中臣 裕之

栄区の皆様、私ども横浜保護観察所は、犯罪や非行をした人の再犯・再非行を防止するための指導や支援、社会を明るくする運動に代表される広報啓発活動などの更生保護を所管している法務省の機関です。

犯罪や非行の背景には、貧困、障害、孤独・孤立、過去のトラウマなど、様々な生きづらさが存在している場合が少なくありません。犯罪や非行からの立ち直りするためには、当事者自身がこうした生きづらさを乗り越え、更生に向けて努力する必要があることはもちろんですが、立ち直りを信じて、その「変わっていく時間」に共に寄り添う人たちの存在も欠かせません。

無給で犯罪や非行をした人の指導や支援を担ってくださっている保護司の方々を始め、女性の立場から犯

罪予防活動や青少年の健全育成に取り組んでおられる更生保護女性会、前歴を承知で犯罪や非行をした人を雇用してくださる協力雇用主、兄・姉のような立場から少年の更生に関わってくださるBBS会など、多くの方々がボランティアとして更生保護に協力してくださっています。

近年、都市化、IT化などが進み、地域の人と人とのつながりが弱まる中で、保護司の数は全国的に減少傾向にあります。安全で安心して暮らせる地域づくりに向けて、是非更生保護の取組にご関心を寄せていただき、一人でも多くの方々が支援の輪に加わってくださることを願ってやみません。



横浜保護観察所
中臣 裕之 所長

栄保護司会の皆様と共に

栄警察署長 大窪 太郎

栄保護司会の皆様におかれましては、更生保護や犯罪の予防のほか、広く安全・安心まちづくりにご尽力されている、その使命感に対して、深い敬意と感謝を申し上げます。

さて、栄区内の犯罪情勢についてです。令和6年中は、前年に比べると刑法犯認知件数が増加傾向にあります。また、非行少年の検挙・補導人員についても、令和6年に入り増加に転じています。社会経済活動が平常に戻ったコロナ禍後は、全体的に犯罪が増加傾向にあるので、今後は、少年犯罪についても同様に増加していく可能性があります。

少年をめぐる犯罪情勢で特筆すべきものに、社会問題化している大麻があります。薬物犯罪で検挙される少年の多くが大麻で、県内の令和5年中の検挙人員で

も約8割が大麻です。大麻は「ゲートウェイドラッグ」とも言われ、覚醒剤と比べても安価に入手できることがその蔓延の要因にもなっていると思われま

す。ご案内のとおり、薬物犯罪は非常に再犯率の高い犯罪です。安全・安心まちづくりには、我々警察のみならず、罪を犯した人と日々向き合って更生・立ち直り支援にご尽力されている保護司の皆様、また、行政機関、学校、地域住民の皆様などとの連携が必要不可欠です。



栄警察署
大窪 太郎 署長

保護司の皆様の活動の中で安全面にご不安なことがありましたら、ぜひご相談ください。今後も、栄保護司会の皆様と連携させていただきながら、一件でも多くの犯罪を減少させていきたいと思

持続可能な保護司制度

栄保護司会 会長 中村 良照

大災害が発生すると大勢の人が体育館等に避難し、外部ボランティアも加わって弱者に寄り添い、弱者を支える昔から見られる助け合いの映像がテレビから流れてくると、一人ではとても生きられなかった昔は皆こうやって助け合いながら仲良く生きて来たんだろうな・・・と。

ところで、皆さんはご存知でしょうか。今回74回目を迎えた社明運動は、戦後わずか4年で始まったとは驚きです。それも、戦後のどさくさの中で非行少年の立ち直りを支援する地元銀座庶民の間から自然発生的に生まれた「銀座フェア」が原点となり、その2年後に国と地方自治体がこの活動を継承したことが、また素晴らしいと感じます。

その後、長い年月をかけ必要に応じて規制や法律を付け足し、時には変更しながら、すべての弱者・居場所の無い人・生きづらい人・助けを求める人等々に手を差し伸べ、寄り添い、支える仕組みは出来上がって



栄保護司会
中村 良照 会長

いきました。今でも組織の上層部では常に仕組みの改善について話し合わせ、「持続可能な保護司制度」の検討会が行われています。

ただ、問題もあります。それは、保護司をはじめとする様々なボランティアの分野で、仕事が増え過ぎてしまったことです。

その一方で、今まで比較的時間に余裕があった高齢保護司が定年を迎え、辞められていくという現実です。後を引き継ぐ人材があればなんの問題も無いのでしょうか。現代の若者の心(時には中年の心まで)を虜にしてしまう楽しい趣味や生き方が世の中に多過ぎて自分の将来の夢や希望とボランティアがうまく両立出来ず、ついこの足を踏んでしまうのでしょうか。ちなみに私が保護司を拝命したのは今から四十年前、戸塚区から栄区が分区するに当たって、急ぎ栄保護司会を立ち上げる必要にせまられ人数が足りない人集めが始まりました。当時は村の顔役に頼まれたり日頃世話になっている人から頼まれたりしたら、決して「いや」とは言えない「義理人情」の世の中だったので「二つ返事」で引き受けました。人集めは今よりずっと楽だったこと

でしょう。とにかく、誰かが助けを求めたら、それに対応できる社会、人生で失敗してしまった人を排除せず、再び受け入れる社会の実現を願って、私なりに微力を尽くす思いであります。

保護司の命を受けて

昨年の4月に辞令をいただきあつという間に一年半が過ぎようとしています。右も左も分からない出発から、大勢の先輩方のご指導をいただきながら対象者と向き合う毎日です。

保護司をしていた母の背中を見ていた30年余、この仕事が決して楽ではないことは充分過ぎるほどわかってたつもりでした。面談の時間を守る難しさ、対象の方だけではなく、取り巻く環境やそのご家族達。報告書を作成するときの苦労等々、まさか経験するとは思っていなかったこともあり、ドキドキの毎日です。

また、保護司会を通して、貴重な出会いがあり、諸

先輩方の真摯に向き合う姿勢に心を打たれたことは忘れられません。改めて新しい環境に身を置くことで自分が成長していると感じることができ、また少しでも社会貢献に繋がればと必死の思いです。

環境さえ整っていれば 犯罪に手を染めることから防げたのではないかと思うことにもしばしば直面します。今の自分に何が出来るか、役に立つ自分になるために、精一杯しっかりと向き合っていこうという決意が生まれてきました。どうぞ宜しくお願い致します。

(文責・星野 みゆき)

住民の理解

少し前ですが長野県内にある公園近くに住む住民から、「子供の声がうるさい」という申し立てに、行政側は公園の出入り口を変えたり、子どもの遊ぶ時間帯を制限したりして、いろいろと手を尽くしたが、それでも近隣住民の理解を得られずに、とうとう公園の閉鎖に追い込まれたという記事を目にしました。

今までも高齢者施設、障害者施設、更生施設、子どもの施設、ゴミ焼却場、火葬場、依存症などリハビリ治療病院の建設や、バス停の場所などが近くに来ると、近隣住民の反対運動がおきました。

もともと上記の施設があったところに、その施設があるのを承知で後から住宅を購入した住民に対しても、施設が老朽化して建て替える時には、とても気を使いながら、住民と話し合っ

て話を職員から伺いました。

更生保護のボランティアをする中で、施設を出てから更生を願って一生懸命頑張っている人たちに、偏見でなく温かく見守って頂きたいと思

います。最近ある相談者の方の面談をしている時、心の奥に響いてきた言葉が、「私は悪いことをしてきましたが、悪い人間ではありません。施設に入れて罰を与えるのではなく、入所した人に気づかせる治療のような研修が大切だと思います」でした。相談者自身も再犯を重ねながら、ようやくそこへ思いが至ったと話してくれました。

いつの日にか施設を出てきた人が、自分を偽らなくても受け入れてくれる社会になるよう願っています。

(文責・梅原 恵子)

第74回 社会を明るくする運動 栄区講演会

横浜ダルク・ケア・センターの山田貴志施設長による「依存症は心の病～地域で何が出来るか～」の講演会が、7月5日、栄区役所新館で行われた。参加者は、学校関係者、更女会員、保護司など69名。同センターは、薬物依存症となった人の回復と社会復帰を手助けする施設。依存症は身近な生活の中で起こる病気。壁にぶつかったその時、薬物ではない選択ができる家族や地域でのコミュニケーションの大切さを語られた。



栄保護司会 担当保護監察官

横浜保護観察所 戸田 洋平 主任官

昨年6月から栄区を担当させていただいている戸田と申します。

栄区保護司会の皆様には、平素から更生保護の諸活動に対し格別のお力添えを賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

令和6年9月末日現在、栄区内の保護観察事件概況につきましては、全事件数が12件、そのうち少年事件が5件、成年事件が7件です。昨年と比べて、全事件数が4件、少年と成年の事件数はそれぞれ2件ずつ減少しました。ちなみに、過去をさかのぼってみると、全事件数は30年前が28件、20年前が31件、10年前が29件という



横浜保護観察所 戸田 洋平 主任官

ことで、この10年間で全事件数が半数以上減少したことになります。

保護司の先生方お一人お一人が保護観察対象者の改善更生を望み、地道に働き掛け続けてきたこと、保護司会として犯罪予防に向けた諸活動に取り組んできたことが、10年間で半数以上の減少という結果となって表れたものだと思っております。

対象者への働き掛けと一言に言っても、対象者に伝わるタイミングはさまざまだと思います。対象者の心に響くのは、その瞬間かもしれないし、明日かもしれない。10日後、1か月後、半年、1年後かもしれない…。いつかは伝わると信じ続けて、働き掛けをしたり見守ったりしていくことが必要なのだと思います。

今後とも、引き続きご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

令和五年度 表彰者 (敬省略)	叙勲 (瑞宝双光賞) 中村 良照	関東地方更生保護委員会委員長 表彰 渡辺 和二	横浜市長表彰 細野 ゆり	関東地方保護司連盟会長表彰 興石 且子	横浜保護観察所長表彰 八ッ橋 太一	神奈川県保護司会連合会長表彰 尾形 浩之 志村 信二郎	薬物乱用防止指導員協議会会長表彰 歌田 隆子 阿部 悟	令和六年度 表彰者 (敬省略)	関東地方更生保護委員会委員長 表彰 細野 ゆり	関東地方保護司連盟会長表彰 八ッ橋 太一	横浜保護観察所長表彰 尾形 浩之 志村 信二郎	神奈川県薬物乱用防止指導員協議会 会長表彰 毛利 勝男
-----------------	------------------	-------------------------	--------------	---------------------	-------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------	-------------------------	----------------------	-------------------------	-----------------------------

2024年10月22日、栄区の保護司、更女会員15名にて研修を行い、多摩少年院を訪問しました。教室では、一人一台のモバイルPCによるICT技術や数学の授業、屋外では、フォークリフト操作や野菜作りの実習が行われ、真摯な顔つきで取り組む姿を拝見しました。我々の訪問に気づいた少年たちは、声を出して目を合わせてあいさつをしてくださりました。保護観察では行き届かない手厚い指導のもと、社会で通用しうるスキルを磨き、心身ともに成長しつつある彼らが生かされる社会であるために、「偏見のまなざし」を弱め、意識の変容を図り、暖かい心で受け入れる「地域のチカラ」を高めていくことが大切だと改めて感じました。



更女の皆さんと多摩少年院を訪問

(文責・細野ゆり)

編集後記

法務大臣の委嘱による保護司の活動の中心は、保護観察期間中の対象者との地道な月2回程度の継続的な面接です。「栄保護司会だより」の発行は、地域活動の一環として、広報部会の太田顧問、中村会長、星野保護司、細野の4名で担当いたしました。また、県知事選任による薬乱用防止指導員も、栄保護司会の重要な地域活動のひとつです。今年度も、栄警察署の方、地域の薬剤師さん、中村会長、渡辺副会長と一緒に、桂台小学校六年生を対象とした薬物乱用防止教室の講師を務めさせていただきました。薬物依存のメカニズムについて理解を深め、薬物の使用を誘われたらどのように断ったらよいかについて、先生や生徒さんと一緒にロールプレイをとおして考えました。教室での体験が生徒さんの心に刻み込まれ、近い将来、保護観察で彼らと再会しないことを願ってやみません。

(細野ゆり記)